

シラバス参照

開講年度	2020
科目名	情報経済論2
職名／担当教員	経済学部 教授 望月 宏
期間／曜日／時限	後期 水曜日 3時限
開講区分／校舎	一部生田／生田
配 当	経済学科234, 国経学科34
単 位	2
コースコード	ECP311

講義内容	<到達目標> グローバルに情報化が進展する現在、情報経済論の視点と手法に基づいて日本経済の現状を分析できる。 <卒業認定・学位授与の方針との関連> 「知識・理解」「思考・判断」 <講義概要> 前期において情報化社会の本質、組織への影響と日本経済への影響を検討しているが、後期では情報経済論の理論的な側面である、情報の価値、情報財の市場、非対称性、情報経済論などの理論的側面を前半学ぶ。後半は、情報技術とつながりの深い産業に光をあて産業構造、生産性、規制緩和などの経済的、政策的な側面を他国と比較しながら検証する。そして情報技術がグローバルの中での日本の経済の競争力を高めることを確認し、今後の日本経済の成長への影響を分析することができる。 <講義計画> 後期 第1回 前期のまとめ、授業の概要、到達目標、成績評価 第2回 リスクと情報 第3回 不確実性下の意思決定モデル(続) 第4回 完全情報の価値と機会費用(続) 第5回 情報財の特質と市場 第6回 情報経済論 非対称な情報、基本モデル 第7回 情報経済論 非対称な情報、応用モデル 第8回 情報経済論 非対称な情報、発展モデル 第9回 情報経済論 分離価格、プーリング均衡、逆選抜、シグナリング 第10回 規制と競争の理論 第11回 情報、通信産業の市場戦略 第12回 競争力分析(個の競争力、企業の競争力、産業の競争力、都市の競争力、国の競争力) 第13回 情報技術と日本経済の成長戦略 第14回 インターネットビジネスの展開 第15回 後期のまとめとテスト
教科書・参考書	<教科書> 教科書は特に指定しない。 <参考書> 以下の本は、参考書として随時講義のなかで利用する。 マッケナ著、秋葉訳、『不確実性の経済学』、多賀出版 広松、大平著、『情報経済のマクロ分析』、東洋経済新報社 林、松清著、『テレコミュニケーションの経済学』、東洋経済新報社 ハマー、チャンピー著、野口訳、『リエンジニアリング革命』、日本経済新聞社 経済企画庁調整局編、『日本経済の情報化』、大蔵省印刷局
成績評価方法・基準	全回出席と真摯な授業態度を原則とした上で、毎回の授業のまとめ、論考、および課題をネット上へ提出(80%)、最終レポート、授業での発表(20%)により判定する。
履修上の留意点	予習として、授業内で提示される資料を読んでおくこと。また、復習としては、授業用の私の研究室の掲示板に「毎回の授業のまとめ、感想、課題への回答、質問」を提出することによって行われる。 「情報経済論2」(後期)は「情報経済論1」(前期)と密接につながっているため、「情報経済論1」の履修を原則として前提とする。
担当教員へのアクセス	メールによる(mochizukiphd@gmail.com)
その他	前期「情報経済論1」初回授業時に履修希望者の手続きを行うので、必ず参加すること。
更新日付	2020/02/19 15:49